

Ⅲ 研究の方向

わたしたちは、これまでの本園の研究の成果を踏まえ、時代の要請に求められる幼稚園教育の在り方を模索する研究を推進していく必要があると考える。そして、子どもの主体的な活動としての遊びを十分に確保できるような保育を実践していかなければならない。

主体的な活動としての遊びをさらに充実したものにするために、本園では、自分以外の「他」を「人」「もの」「自然」と分類し、それらとのよりよいかかわりを通して子どもたちが自分らしさを発揮できるように、保育の充実を図っていくこととする。

1 研究の方法

私たちは、本研究テーマのもと研究を深めるために、以下のような方法で研究を進める。

- 実態調査の実施及び分析
- 研究保育及び保育研究
- 事例研究
- 保育者としての援助の在り方の検討
- 環境構成の工夫・改善

<具体的方法>

- ・ 他とのかかわりによって見られた子どもの姿をまとめる。
- ・ 発達の段階による違いや成長過程を探る。
- ・ 抽出児の追跡調査をする。(2～3年の長期計画で行う)
- ・ PLAN (計画) → DO (実行) → CHECK (評価) → ACTION (改善) のサイクルで、保育実践を振り返り、保育内容を検討する。

2 研究計画

年次	研究内容
<1年次> 「人」とのかかわりを中心に	<ul style="list-style-type: none">○ 研究テーマについての分析○ 年齢別の自分らしさを発揮する過程や姿をまとめる。○ 人とのかかわりから自分らしさを発揮する子どもの姿を探る。<ul style="list-style-type: none">・ 保育者としての援助の在り方・ 環境構成の工夫・改善
<2年次> 「もの」とのかかわりを中心に	<ul style="list-style-type: none">○ 「もの」とのかかわりから自分らしさを発揮する子どもの姿を探る。<ul style="list-style-type: none">・ 保育者としての援助の在り方・ 環境構成の工夫・改善○ 運動・表現・音楽的な活動を取り入れた遊びの広がりを促す「もの」の教材研究を深める。
<3年次> 「自然」とのかかわりを中心に	<ul style="list-style-type: none">○ 「自然」とのかかわりを通して自分らしさを発揮する子どもの姿を探る。<ul style="list-style-type: none">・ 保育者としての援助の在り方・ 環境構成の工夫・改善○ 研究の成果、課題を踏まえた教育課程・指導計画の作成